

チェルノブイリ通信

2012年12月10日

No.90

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26バステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jim@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



ミンスク小児血液病・悪性腫瘍センターで取材に応じたベアラ・ロブチェンコさん

特集:ブレスト第12回検診帰国報告(1)

検診と内視鏡手術、
医療機関訪問と盛り沢山の二週間

ゴメリでの再会
～避難者の村、のぞみ21取材レポート～

ゴメリ州遺伝学研究所取材報告

今さら聞けないチェルノブイリQ&A

ヘアサロン・スネガブーク報告

2013年度通常総会のご案内

事務局日誌より主な活動報告

コーヒーキャンペーンのご案内

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

● 特集 ● プレスト第12回検診帰国報告(1)

検診と内視鏡手術、医療機関訪問と盛り沢山の二週間

今年の検診・調査団のベラ

ルシー訪問は9月15日から28日(検診は22日)までと約2週間の日程で行われました。検診団メンバーは、日本医科大学の清水一雄先生、同学付属病院病理部の渡會泰彦臨床検査技師、二度目の参加となった片山昭公先生(札幌徳洲会病院)、初参加の後藤孝先生(北斗病院)、日医大研修医の小川護先生、九州大学4年生の平川可南子さん、調査団は、ロシア語通訳の福岡由紀子さん、医療通訳の山田英雄さん、CMスタッフの川原、河上の計10

名でした。

私にとっては、2000年のストーリー第8回検診以来の訪問であり、この間に検診のスタイルも変わり、内視鏡手術も回を重ねており、その変化を見届ける意味がありました。後半はミンスクとゴメリの医療機関を訪問して、現在の治療の状況などを調査してきました。その内容の中には極めて重要な情報が含まれており、いずれこの通信で明らかにできるものと思います。

(文責/河上雅夫)

《支援物資・支援金》

■ベラルーシ赤十字

検診車「雪だるま2号」維持費
\$1,500

■ミンスク10番病院

医療機材等購入費
\$1,000

■プレスト州立内分診療所

医療機材等購入費
\$2,000

医療支援物資

■福祉工房「のぞみ21」

工房運営カンパ
\$2,465

■NGO「コンフィデンス」

活動運営カンパ
\$900



執刀医の清水教授



アルツール所長へ資料を贈呈

「プレスト」

9月16日、成田からモスクワ経由ミンスクまで一気に飛び、ミンスクで一泊したのち、最初の目的地・プレストに向かいます。ミンスクからプレストまでの国道1号線はモスクワからポーランドを経由してヨーロッパに向かう幹線で、ヨーロッパ30号線とも呼ばれています。当日は日曜日のため病院訪問はせず、市内にある第二次世界大戦の激戦地・プレスト要塞を見学しました。

9月17、18日、プレスト州立内分
泌診療所を訪問し、アルツール所長

と再会。前は2009年に来日され、福岡でも報告会を開催しています。なかなか忙しいようで、頻りに電話がかかってきており、日常業務に追われているようでした。

今回の検診では2日間で26名の患者を診察、穿刺^{せんし}吸引を行い、そのうち2名のがん疑いが発見されました。触診、穿刺吸引を診療所のスタッフが行い、染色、細胞診は日本医科大学付属病院の渡會先生です。渡會先生はパニコロウ染色で診断を下されるのに対し、ここではギムザ染色を行っているので、今後

ギムザ染色の指導をどうするのか
考えなくてははいけません。また、エ
コー装置も贈呈して10年が経過し
ており、買い替えの時期が近づいて
います。検診体制の確立にはまだ
まだ時間がかかるようです。

前号でお知らせしたように、『甲
状腺の細胞診』ロシア語訳をアル
ツール所長に手渡ししました。これ
はベラルーシで主流のギムザ染色に
よる細胞診の有力な参考書となる
はずです。

検診と並行して、清水先生、片
山先生、後藤先生、小川先生はプレ
スト州立病院での甲状腺内視鏡手
術に取り組まれました。17日には
手術室の事前チェックを行いました
たが、患者の事前診察をすること
はできず、また、連続して二人の手
術を行うことになりました。この
ようなハプニングにもかかわらず2
例ともほとんど出血することなく
無事に手術を終えることができた
のは、清水先生をはじめ担当され
た専門家の技術の高さを物語って
います。

【ミンスク】

9月19日、駐ベラルーシ日本大使
館を表敬訪問し、三森重弘臨時代
理大使と懇談しました。ベラルー
シにおける在留邦人は約30人、隣
国のポーランドでは1200人とい
うことで、そのような状況の中で、
少ないスタッフで草の根支援などの
調査活動を行っております。

午後にはベラルーシ赤十字を表
敬訪問しました。私たちの医療支
援活動はベラルーシ赤十字からの
招聘という形で行われているので、
本来は最初に訪問するべきです
が、今回はカルヴァノフ総裁との会
見予定日の都合でプレストでの検
診・手術を先行させました。

わたしたちの検診と同時期の9
月23日には国際赤十字・赤新月社
連盟(IFRC)の国際会議がゴメ
リで、26日にはミンスクで開催され、
日本赤十字本社近衛忠輝社長もベ
ラルーシを訪問しています。今回の
検診では後半のゴメリ行きで雪だ
るま2号(※ベラルーシ赤十字へ寄
贈したワゴン車)が使えませんでし
たが、それは各国国際赤十字連盟
代表のために雪だるま2号が使わ

れることになったためです。

9月20日、ミンスク10番病院を訪
問し、ラリサ・ダニーロバ教授と再
会、支援金と『甲状腺の細胞診』を
渡しました。また、ミンスクで3例
目、10番病院では2例目となる甲
状腺内視鏡手術が行われました。
今回の患者は甲状腺のサイズが40
ミリとかなり大きく、手術の難易
度が大きいにもかかわらず、手術
時間は85分で終了し出血もなかっ
たということでした。ただ、前日に行
う予定だった患者の事前診断と手
術室の確認が当日にずれ込んだこ
とは、専門医のモチベーションにも
影響する事柄だったといえます。

いろいろと問題はあったものの、
今回の3例ともほとんど出血のない
手術だったことで、全体としては成
功だったといえます。来年には10
番病院の若い医師
1名が日本医科大
学で研修すること
になっており、ベラ
ルーシでの甲状腺内
視鏡手術の普及に一
歩前進することに
なるでしょう。



ミンスク医学再教育アカデミー



デミチク所長とラリサ教授

9月21日、早朝には検診団の先
生方が帰国され、前日夜にミンスク
入りした福間さんを加えて、今回
の主要な目的の調査活動に入りま
した。最初に訪問したのは悪性腫
瘍病院の院長であり、ベラルーシ医
学再教育アカデミーの所長である
ユーリー・デミチク医師です。ベラ
ルーシにおける甲状腺がん手術の
第一人者であり、国立甲状腺がん
センター所長だったエブゲーニ・デミ
チク教授の息子さんです。現在、
松本市長である菅谷昭先生が甲状
腺がんセンターに勤務していた時の
同僚でもあります。奇しくも20
00年のシンポジウムでは清水先生
とデミチク教授が講演され、その時
に発表されたのがベラルーシにおけ
る小児甲状腺がん患者症例数の推
移です(チエルノブイリ通信51



2007年以來の訪問となった
小児血液病・悪性腫瘍センター



放射線医学環境センター



取材の様子



ナターシャちゃん

アラさんの案内で訪れたのが放射線医学環境センターで、ここは2001年にミンスクのアキサコフシナから移転してきたということです。アキサコフシナについては、以前訪問したことがあり、医療機器の支援も行っています。ただ、現在の

号)。今回は最近発表になった福島での検診結果についての感想をお聞きしました。それによると「福島で問題となっている甲状腺の異常については、のう胞は全く問題ない。結節の場合は10ミリ以下であつてもその構造によっては慎重に判断しなければいけない。」また、最近の患者数の推移については「最近、甲状腺がんの発病率は安定化している。その発病率は、10万人分の13くらい(小児を含めた一般の発病率、2011年)。ピークになったときの95〜96年のゴメリの甲状腺がんは10万人分の130くらい。これも大体の数だけでも、全ベラルーシの10万人の4(子供)。」

「現在問題になっているのは、甲状腺疾患というのは数が多い。どちらにしても結節性疾患というものがある。結節には良性と悪性がある。その鑑別のためにバイオプシー(生体組織診断)をやっている。小さい年齢で結節がある場合にはがんになる可能性が高いので、我々は用心してやっている。だいたいにおいては良性的が多い。のう腫に関しては、我々は心配していない。ただやはり年齢が低い人にとって、結節があれば良性が悪性かという判断をしなければいけない。」というこ

とでした。午後はミンスク郊外の小児血液病・悪性腫瘍センターを訪問しました。ここでは最新の設備を使って白血病などの治療を行っており、病院内部を案内される前に、これまでの患者数などの詳しい説明がありました。それによると、原発事故直後の86〜87年においてベラルーシの小児白血病患者数が24人、そのうちの11人がゴメリ州であったため、原発事故の影響ではないかと心配しましたが、その後、現在ではヨーロッパの水準と差がないということです。詳しい資料をいただいているので、いずれデータを発表できるものと思います。

【ゴメリ】
9月22日、朝からゴメリに向けて移動です。前に書いたように雪だるま2号が使えなかったため、現地で車両を調達しての移動となりました。途中でのぞみ21のナターシャさんと一緒になり、約5時間でゴメリに到着です。強制避難地区ブーライギンからの避難者の取材及びのぞみ21取材については、6ページのレポートをご覧ください。
9月24日、まず、朝一番にベラルーシ赤十字ゴメリ支部を訪ね、支部長のアラさんから歓迎を受けました。ゴメリ州の保健局訪問時には、ゴメリ州における甲状腺がん検診の最新結果をいただいています。その内容については、いずれ報告する予定です。



母子の支援に取り組むコンフィデンス代表のイリーナ・アリノビッチさん
今年9月には初孫が誕生した



コンフィデンスのスタッフでもあるリューダアンナちゃんはお母さんにそっくり



26日朝、ゴメリ発の列車に乗ってミンスクへ



ベラルーシ赤十字の雪だるま2号

放射線医学環境センターの設備は素晴らしく、私たちが援助するレベルをはるかに超えています。ここでは、若年性糖尿病患者、リクビダートル患者(女性2人)、白血病患者(ナターシャちゃん、3歳)を紹介されました。

その後、ゴメリ州執行委員会を訪問し、チエルノブイリ原発事故・リクビダートル後遺症問題局副局長、リュドミラさんから原発事故7年後の汚染予想などの説明を受けました。また、ゴメリ州執行委員会主任顧問(国際交流担当)マリーナさんからは、私たちの活動に強い関心を持たれました。

この日の最後は、ゴメリ州遺伝学研究所訪問です。内部の見学と所長からの説明を受けました。その

内容については8ページのレポートをご覧ください。

9月25日は前日までにゴメリの訪問予定が終了したために、地元のココレート工場を訪問して、お土産用のチョコレートを購入しました。また、26日にミンスクに戻りましたが、雪だるま2号がないため、列車での移動となりました。検診団・調査団の列車利用は93年の第3回調査団以来となります。費用が安上がりになるため、今後も利用の可能性ががあります。

【再びミンスク】

ゴメリでいったん別れたナターシャさんとミンスクで再会しました。ゴメリで受け取る予定だった民芸品を完成させてホテルまで

持ってきてくれたのです。また、夜にはリューダ親子がホテルまで来てくれました。リューダさんに支援金を手渡し、今回の任務をすべて終了しました。

9月27日、早朝の飛行機でモスクワに向かい、帰国の途に就きました。機内で日付が変わり、28日に無事帰国することができました。

成田出国から帰国まで14日間という長期で、細かいところではいろいろとトラブルがありました。事故もなく無事に全員が帰ってくることもできました。昨年までは日本

医科大学の学生さんが同行していましたが、今年は大学の試験日程と重なったために、日本医科大学からの同行はなく、九州大学医学部4年生の平川可南子さんが同行

されました。また、この報告にはほとんど書いていませんが、後半の一部を除き、報道写真家の森住卓さん、映画監督の鎌仲ひとみさんが同行取材されました。両名とも著名な方で、ホームページやブログ、講演会などで今回の訪問が報告されるものと思います。今後、私たちの医療支援活動について多くの方に広まることを期待したいです。

ゴメリでの再会

汚染地域からの避難者家族訪問と 福祉工房「のぞみ21」取材レポート

ベラルーシ訪問団には何度か参加させていただきましたが、今回は後半に参加し、初めてのゴメリ訪問となりました。ミンスクからゴメリへ向かう車には、福祉工房のぞみ21代表のナターシャさんも同乗。家族を次々に亡くしたナターシャさんは孫娘のそばにいたいとミンスクに住むことを決め、時々ゴメリに通っているそうです。彼女とは、今は亡き夫のステパンさんと来日された時以来の再会でしたが、私をよく覚えていると言ってくれました。

(報告/福岡由紀子)

◆ブラーギンからの避難者の村

ゴメリに到着後、道に迷いながらやっと到着したのはチェリユハという村の、林檎と葡萄がたわわに実る一件の家でした。周囲にも家が並んでいましたが、この村は、強

制避難地区ブラーギンのイリイチ村から避難してきた人々のために作られた村でした。イリイチ村にはおよそ1200の家族が住んでいましたが、その半分がこのチェリユハ村に、半分が近くにあるチェレシコビツチ村に移住したそうです。

したそうです。



ナターシャ(左)と母、息子



(右)障がい者証明書
(左)家のまわりには林檎が実る



避難者の村と言ってもゴメリ市内から少し南に下ったところにあるゴメリ州ゴメリ地区に位置していて、福島でいえば福島県内への避難に相当するのかもしれない

受けました。両親のアンドレイさん(68歳)とマリアさん(61歳)に事故当時のことを尋ねると、事故が起きたことは4月27日にブリピヤチで働いていた知人から聞いて知ったとのこと。その時はテレビやラジオでは何も報道していなかったそうです。しかしその村からも原発の方向が赤くなっているのが見えたとのことでした。5月10日にゴメリ市に子どもたちだけ避難させ、10月に家族全員でこのチェリユハ村に移住してきました。ナターシャさんが3歳の時、お母さんが右首の腫れに気づき検査。4歳の時ミンスクで手術を受けました。傷跡は今でもくつきりと

せん。

この家に暮らすナターシャさん(27歳)は3人姉妹の末っ子で子どもの頃甲状腺の手術を

ネットレスのように残り、手術によって声帯の神経が傷つけられて当時は声が出なかったと、今でも少しかすれた声で彼女は話してくれました。術後はドイツで9回にわたって放射線ヨード治療を受けたそうです。彼女は2003年11月、無事男の子を出産。チロキシンを飲んでいたので出産に対する不安はなかったけれど医師からは母乳ではなく、粉ミルクを与えるよう言われたとのことでした。

子どもの頃の写真がないかと尋ねると、「日本に行った時のもありますよ」と言うお母さん。実はナターシャさんの話を聞きながら、そのかすれた声や顔立ちに、「もしかしたらあの時の少女では?」と、私はずっと気になっていたのですが、まさにその人だったので。1997年にチェルノブイリ子ども基金がウクライナとベラルーシの子ども各5人を日本に招いたことがありました。彼女はその中の一人で、広島にも訪れ、私もボランティアとして一緒に宮島や平和公園を散策したのです。多くの人の前で、ほとんど声が出ないにもか



エレーナさん一家(上)が暮らすゴメリのアパート(左下) ナターシャさん(右下)との交流は99年に始まった

結婚して別に暮らしている姉のターニヤさん(32歳)は6歳の時の検査で両方の甲状腺に結節が見つかりました。甲状腺の手術をした方がいいのですが、手術ができず、

明書3級を持っています。障がい者証出産は大丈夫でした。障がい者証

◆のぞみ21スタッフ、エレーナさん宅訪問

かわらずしつかりとスピーチをした彼女は、来日した子どもたちの中で一番印象深く私の記憶に残っていました。彼女がここで生活し、立派な母親になっている姿を目的

当たり前にすることができ、本当に嬉しく思いました。

エレーナさんはのぞみ21では絵を描く仕事をしています。この部屋の壁にも彼女の描いた絵が飾ってありました。エレーナさんは胸郭扁平症かくへんしょうだったため6年前に手術しました。今は卵巣多嚢胞症たのほうしょうで婦人科に罹っています。障がい者証

ゴメリ市内にある内分泌病院で定期的な検査をしています。ターニヤさんの10歳の息子も甲状腺の肥大があるそうです。

お母さんのペーラさんは10年間のぞみ21で裁縫全般を担当していました。視力が弱いので拡大鏡を用いて頑張って仕事をしてきたのですが、最近医師から裁縫仕事を止められ、のぞみ21の仕事ができなくなりました。今は3級の障がい者証明書を持っていますが、3級ではたとえば薬局で並ばなくてもいいぐらいしか特典はなく、ほとんど役に立たないそうです。チェルノブイリ事故については5月1日のメーデーも普通に過ごしていたので、おそらく1週間以上過ぎてから知ったとのことでした。事故を知って市内はパニックになり、ターニヤさんはロシアへ、ワシリールさん(エレーナさんの兄、37歳、ゴメリ市内在住)はカザフスタンの子どもラーゲリへ2ヶ月ほど避難したそうです。

私たちの訪問に、最初はしかめっ面だった2歳の娘さんも、次第に笑顔を振りまき、短い時間で

したが、和やかな語らいの場となりました。アパートを出ると外は肌寒く、のぞみ21のナターシャさんに、「あの部屋は暖房が効いているみたいにあたたかかったですね」と言う。「あの狭い部屋にこんな人が集まったのだから暖かくなったんでしよう。あの家族は本当に貧しいです。でも、冷たさはなかったでしょう?」とナターシャさん。たしかに若い夫婦と可愛い娘とおばあちゃんの一家には、貧しいけれど笑顔が絶えない幸せが満ちていると感じました。

それにしても、ナターシャさんはなんと強く優しい人なのでしょう。息子と娘をがんで失い、夫も思わぬ事故で亡くし、自分自身も脳腫瘍を患うという苦境にありながら、こうやって支援活動を続けているのです。もしいつかまたナターシャさんとお会いする機会があれば、その時はじっくりと彼女とお話をしたいと思いました。

ゴメリ州遺伝学研究所所長

オレグ・フセバラドビッチ・クリボラポフ氏に聞く

早期検査で胎児のダウン症リスクを診断

このセンターでは、汚染地域であるか否かにかかわらず、妊娠から10〜12週で必ず全員にエコー検査をします。また、その期間に母親の血液を採取し、PAPPやPFKなどの化学検査をし、母親の年齢なども鑑みてダウン症リスクを判断します。この段階でリスク

由は様々だからです。例えばある人は自分の宗教によって、あるいは、家族の状況によって。ダウン症は遺伝する病気ではありません。またダウン症自体は知的な障がいではありませんが生存可能な病気です。しかし他の疾患を伴うことがあります。ダウン症の子どもたちは免疫力が弱いことが多く、それによって様々な病気にかかる率が高くなります。また心臓に生まれつき欠陥がある場合も多く、健康に悪影響を及ぼします。ダウン症の子どもたちで亡くなるのは、ダウン症自体ではなく、心臓や他の病気が原因となっているのです。

がある人に対しては、羊水検査を行います。羊水の中には胎児の細胞が浮遊しているので、それを増殖して顕微鏡で見れば、将来の赤ちゃんの染色体を検査することができます。それらによって診断をし、両親に結果を報告します。それから両親は産むか産まないかの決断をします。

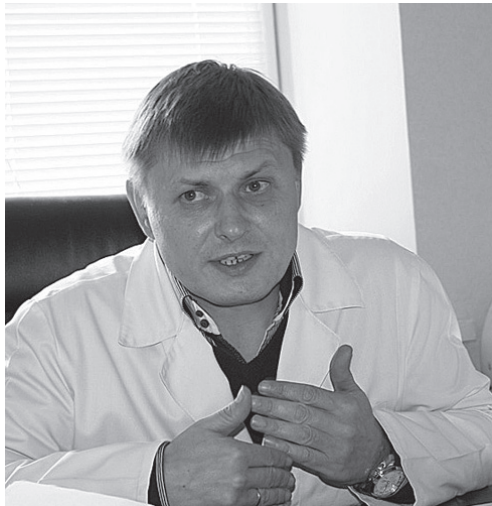
家族が中絶を決める場合は、母体の安全性が低い場合や、彼女が次の子どもが欲しいかどうか、安



上) ダウン症リスクのある母親に対して実施される羊水検査



下) ゴメリ州遺伝学研究所入口(左)をくぐった先には観葉植物がたくさん並んでいる(右)



取材に応じるオレグ所長

全に妊娠を続けていけるかどうか、そういうことで判断されることが多いようです。

以上のような妊婦の検査とともに、このセンターのもう一つの仕事は不妊問題に関することです。

チエルノブイリ以降、不妊が増えたかどうかという件ですが、不妊の原因は様々です。遺伝的なものはあまり多くありませんが、染色体異常による不妊の場合、治療がとても難しいです。不妊の原因で一番多いのは感染症によるものです。その次に多いのはホルモン異常です。ホルモン異常に関しては事故当初は放射線の影響があったかもしれません。おそらく。

しかし、医学は正確な証明を必要とします。原因は事故によるものかもしれないですし、生活状況によるものかもしれません。長い調査が必要です。

事故の影響は確かにあった

チエルノブイリ後、流産が増えたかどうかについては、まず、遺伝学にはこういう原理があります。つまり、事故に遭おうが遭わまいが、25%の妊娠は自然流産の可能性があります。染色体の異常による流産は事故から2年間は増えました。それは私たちだけでなく、ヨーロッパの医師も、日本の医師も認めたことです。増

も、実は妊娠していたということがよくあるのです。

早期の診断は必ずしも良いなという批判があります。もし妊娠がうまくいかなかったら流産するという自然の法則があるのだから早期の診断は必要ない、というものです。けれど順調でない妊娠がすべて流産するとは限りませんから、やはり診断は必要なのです。

流産率が高いとか、それほどでもないとか論議することはできませんが、それよりもそれぞれの妊娠に関して精査されるべきですし、そして各人がそれを知る権利があるのです。

事故後の流産率の増加の割合が高いとか低いとか、その数値を考えるまでもなく、事故の影響があったという事実は確かなのです。私たちの課題は、それを少なくしていくことです。そして両親の知識を高めることです。そのための相談窓口がここにはあります。私たちがここでやっていること

は、ベラルーシだけのノウハウだと思わないでください。これらはWHOのテーゼです。お金持ちも貧乏な人も区別することなく同じようにこのようなサービスを受ける権利があります。なぜなら妊娠はだれにとつても同じことなのです。私はそれが国のプログラムによって行われていることに満足しています。これは重要なことです。苦しい状況の人は自分ではどうすることもできないのですから、国や周りの人々がサポートして問題を解決しなければなりません。

様々な放射線は細胞を破壊します。例えば女性の卵細胞や男性の精子にも影響を与えます。細胞は放射線の感受性が高い。大量の急激な被曝についてはもちろん細胞は大きな被害を受けますし、ここでは長期間の低線量の被曝ですが、当然影響があります。ベラルーシでは事故後2年間流産率が増えたと申しましたが、福島でもこの調査をすれば同じようなデータが得られるのではないで

しょうか。

放射線からのリスク回避 若者は低線量地への避難を

女の子が被曝した場合、卵子はすでにその体の中にあります。卵子は徐々に順を追って成熟していきます。すべての卵子が障がいを受けるわけではありません。しかし、汚染された場所に住み続け、汚染されたものを食べ続けているとリスクは上がります。

放射線の影響を少なくする方法は医療的なサービスだけではありません。市民は、汚染されていない食品をとり、その土壤に妥協

せず、そしてとくにきれいな水を飲むように指導されてきました。

ベラルーシでは、線量の高さによって強制避難地域やその後避難させられた地域、移住権利地域などがあります。福島で、もし高い線量の所に若い人が住んでいるとしたら移住させなければなりません。

もちろん、放射線に境界はありません、風で運ばれていきます。そうは言っても距離が離れば線量は減っていきます。日本中高汚染地域ではないでしょう。若い世代、少年少女は線量の高い所からできるだけ遠くに離れるべきです。彼らは将来国を担い、将来の

子どもたちを作っていく人たちなのですから。

ベラルーシの農村地域の人々は、森にはきのこが生え、川が流れ、ベリー類がなっている中で生活してました。それらを食べてはいけません。その生き物を捕ってはいけません、ベリーを摘んではいけないということを人々に教えこむのは難しいことでした。しかし、それは教えなければならぬことです。そして、若者は放射線量の低いところに避難すべきです。

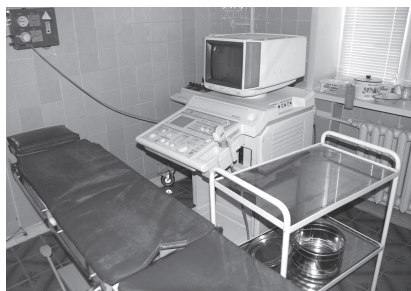
外部被曝はすぐに終わりますが、もつと危険なのは、内部に取り込んだ放射線で、それらは骨や甲状腺に蓄積し、常に影響し続けます。ですから、どのように生活するかが大きく影響するのです。

無用なヒロイズムによって若者がそこに留まるのではなく、放射線の影響を取り除く作業を行うべき者は、より年長者なのです。これは戦争とは違いますが、状況は共通しています。人々は次の世代を引き継ぐために生きなければならぬ、それが自然の法則な

のです。

日本でも若者に必要なのは放射線の低い場所に住むこと、汚染されていない食べ物、水、そして医学的観測です。

福島の子どもたちは将来の出産について不安を持っているようですが、それがどうなるかを予言することはできません。私たちは多くを知っていますが神ではありませんから。しかし、お手伝いすることはできると思います。



施設内の様子

1995年ベラルーシ共和国 コメリ

工房が完成だ!

名前「シメダ」

父 スパン

母 ナターシャ

息子 オレグ

イヤイヤ 意外と上手い

チェリブアリ

11かめ ひびひびの物語 ~ナターシャ、37歳の場合(後) マチ子 マチミ

いまさら人にはきけない!!

しかしー
ゴキウゴキウ
ゴキウゴキウ

見て、オレグも
こどもイキキ
しるー
たよりに
されてるね

わたしも仕事を
やめてまで闘わる
ていになるよな
オレグも白血病を
克服したとたし
さ、これから!



大きな家族みたいな
雰囲気だね
障がいを持つ人や
甲状腺がん経験者
などにも
「居場所」にも
なっているの
仕事場でも
希望の未来だ!

20歳の冬ー
オレグは旅立った

くるみの美みだ
ぼへんちは
かたくりと
結ばれているんだ
オレグ...
だから、これから
どんなことがあっても
すこいこいした
すこいこいした

甲状腺がん
自体は命に
関わらないけど
転移する...

甲状腺がんが
見つかりました
発見が遅れたため
肺に転移してしま

今は、ナターシャの
娘のナターリヤちゃん
残され、たまの休日に
会いに行くのが
生きがいなのよ

その後、娘のナター
さんががんとなり、
夫のスパンさんは
不慮の事故で
この世を去った

オレグのために
つくった工房だった
けど、今では
私たちがたすけ
られてるわね

この工房が
あるから、
私は仕事が
できる
笑ってられるわ

ナターシャさん、
すいぶん仕事に
うちこんでるね
すこ
泣いてた
けど

いっしょに
日本の
ぼへんちの
こどもね

ナターシャさんの
思いが、すこ
人と人を
つなげる

建物はなくとも
生み出される作品
と、そこから生ま
れる出会いこそが
困難をかかえる
人たちの「居場所」
になってるんじや
ないかな

ただね、ほら
手にして
ていねいで
あたたいね

経済難から工房の
建物は手放し
今はスタッフが
各自の家庭で
制作しているの

● 報告 ● 8 回目の開催となった、ヘアサロン・スネガビーク2012

あなたのオシヤレで国際貢献！

2012年8月27日(月)、福岡市中央区大名の大村美容ファッション専門学校オムニス・スタジオにて、8回目の開催となった「チャリティヘアサロン・スネガビーク」が無事に終了しました。ご存知の方も多いかと思いますが、このイベントはプロの理・美容師さんに1500円で髪を切ってもらって、その収益金をチエルノブイリ原発事故で被災した人たちへの支援にあてるという一日限りのチャリティー美容室です。2004年にスタートし、これまでは毎回、祝日と重なる月曜日に合わせての開催でしたが、今回は予定が合わず初の平日開催となりました。また昨年は他の行事と時期が重なったことなどから開催を見送ったため、約2年ぶりの開催となりました。久々の開催とあって、果たしてお客さんが集まるかどうか、いやそもそも運営スタッフが確保できるのか?…と例年以上に不安でした。

しかし口コミや直前の新聞掲載、

当日のテレビ取材などあって、最終的に計50名の方にご来場いただきました。例年と比べると決して人数は多くありませんが、アンケートからは「良かった」「満足した」といった声がたくさんあり、好評をいただけたようで嬉しい限りです。今回、諸経費を差し引いて得た収益金はチエルノブイリだけでなく、東日本大震災への支援も予定しています(※次ページ参照)。

さて今回のイベントは「出張理・美容業務」の特例として福岡市から承認が下りて開催することができました。しかし来年以降は特例として認められない可能性があり、今後もこのイベントを続けられるかどうかからなくなってきました(※そもそも出張理・美容は移動が困難な人を対象としたものであって「ヘアサロン・スネガビーク」は本来の趣旨から外れるため)。せっかく年々定着しつつあり、毎回楽しみにしてください



リピーターのお客様など、たくさんの方にご来場いただきました。スタイリスト、アシスタントの皆さん、今年もお疲れ様でした。本当にありがとうございました!



る方もたくさんいらっしゃるの、CMNとしては今後も出来る限りこのイベントを続けていきたいと思っております。

運営についてはまだまだ改善点がありますが、工夫とアイデアを積み重ねて、チェルノブイリやベラルーシのことをより多くの方に知っていただけるようなイベントにしていきたいです。

最後になりますが、今回のイベントに協力してくださった皆さま、ご来場いただいた皆さまに改めてお

礼を申し上げます。ありがとうございました。

◆協力サロン・美容師の皆さん…

hair Nu-DA/ヘアヌーダ(Tel:092-715-2770)
Matilda/マチルダ(Tel:092-711-1739)
hair double/ヘアダブル(Tel:092-731-3104)
HOLLY'S/ホリーズ(Tel:0955-79-1181)
KASADATE/カサダテ(Tel:0968-73-2535)
大村美容ファッション専門学校の先生方

◆会場提供…

学校法人 大村文化学園

◆協賛・協力…

ニアエキップメント
(特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)



今年のスナガビークでは…

カット料金、物販売上、会場カンパの収入合計より諸経費を差し引き、

約26,000円の収益金を得ることができました!



今回の収益金のうち半分は、ベラルーシへの医療検診団派遣事業費の一部として活用しました。

残りの半分は、「福島ほかほかプロジェクト」「未来の福島こども基金」「放射能市民測定室・九州(Qベク)」へのカンパを予定しています。

2013年度

通常総会のご案内

2013年度通常総会を開催します。今年一年間の活動報告と、来年度の計画を検討します。正会員(議決権あり)でない方もオブザーバーとして参加できます。

●日時：2013年2月23日(土) 17時30分～

●場所：福岡市人権啓発センター研修室

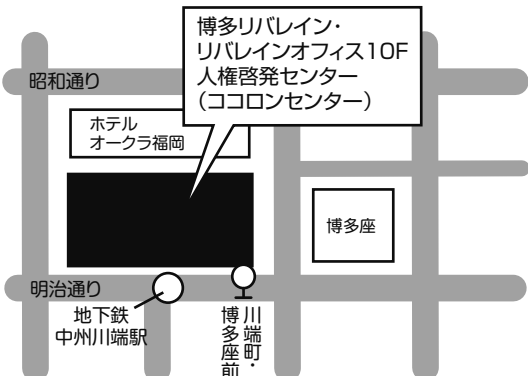
(福岡市博多区下川端3番1号)

博多リバレイン・リバレインオフィス10F

●内容：今年度事業報告・収支決算報告および承認
次年度事業計画・収支予算の承認など

★資料の準備があります。参加ご希望の方は事前に事務局までご連絡ください。

地図はこちらです。総会終了後に、プレスト第12回検診の帰国報告会を予定しています。ご参加ください。



*福岡市営地下鉄「中州川端」より徒歩1分
*西鉄バス「川端町・博多座前」より徒歩1分

ココロンセンター TEL:092-262-8464



事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。

<http://www.cher9.to/>

◆10月14日 ハートフルフェスタ福岡2012



毎年秋の恒例イベントで、昨年が続いて活動紹介ブース出展とフリマに参加しました。今回は県内の複数の大学から多数のボランティア参加があり、とても賑やかなブースとなりました。事務局ブログでも報告していますので、どうぞご覧ください。

出展ブースにて

◆11月8日 福岡市立苅岐中学校へ講師派遣



5時間目の講演



6時間目のグループワーク

(特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)と苅岐中学校の連携による総合学習の授業へ講師派遣に行ってきました。3年生6クラスを対象とした授業で、何年も前から続いています。今回はFUNN加盟団体より6名が講師を務め、CMNからは理事長の河上が参加し、団体の活動や放射能、原発の問題についてお話をさせていただきました。次の時間には講師から聞いた話の内容をまとめてグループごとに発表が行われました。一人でも多くの生徒さんが国際協力に興味をもってくれるといいなと思います。

◆11月10日、11日

国際協力フェスタ 地球市民どんたく2012

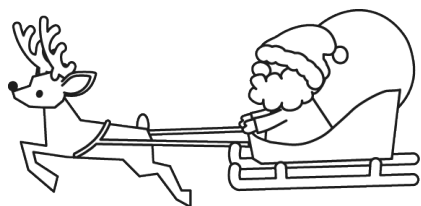


出展ブースで活動紹介



セミナー室での講演会

福岡市のアクロス福岡2F・交流ギャラリーにて開催された「地球市民どんたく」に今年も参加しました。福岡で活動する国際協力NGOなどが一同に会し、大学生や一般の方など、たくさんのご来場がありました。また10日の午後からは、お隣のセミナー室にて講演会を行い、理事長の河上が活動報告などをしました。出展ブースでは、支援「コーヒー」や「のぞみ21」商品販売し、小物を中心にたくさんの方にご購入いただきました。新しい試みとして民族衣装のファッションショーなどもあり、賑やかな2日間でした。



コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内



～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？

期間中、商品（コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨、書籍）を合計5千円以上ご注文いただいた先着20名の方にベラルーシのお土産（※）をプレゼントします！

期間 2012年 12月1日(土)～12月22日(土)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります。



※プレゼントはスープの素、ボルシチの素など様々です。内容はお任せください。



私も応援しています!

会員さん 紹介コーナー

Vol.16

このコーナーでは、チェルノブイリをともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材/和田

本日の会員さん

コンガリ舎 くぼともこさん

<福岡県糸島市>



他では売っていない、手作りのぬくもりを感じます

7、8年くらい前、福岡市内で『アレクセイと泉』の上映会があったときにチェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)のことを知り

ました。その映画を見る少し前ですが、旅行でハンガリーのブダペストへ向かう途中にウクライナを通りました。ウクライナってチェルノブイリの事故があったところだから殺伐とした風景を想像していましたが、実際はきれいな原っぱがずっと続いていました。何とというか、とても「普通」だったので、それがすごく心に残っていました。そのあとチェルノブイリをテーマにした『アレクセイと泉』を見たので、何となく縁を感じました。また上映会の会場で展示されていたので

み21の手工芸品を見て、とても気に入ったのでもう少し関わりたいと思うようになり、水巻町にあった事務所にも何度か伺いました。

のぞみ21の商品は、色の組み合わせなど他では売っていない独特の雰囲気がありますね。クロスステッチが素朴な感じで、手作りのぬくもりが伝わってきます。ヨーロッパの雑貨が好きという方は結構多いですし、気に入って購入される方はきつといらっしやると思います。

作業所がなくなつたと会報にありました。が、やっぱり皆で集まって作業するほうが楽しいと思うので、とても残念です。どの商品も見た目の良さだけでなく、普段の生活で使いやすいものであれば、皆

さんがもつと手に取られるのかなと思います。とはいえ、こちらの希望を伝えてもなかなか思い通りにいかなかったり、届くまでに時間がかかることもあるから難しいところですね。私はのぞみ21のカラーをそのまま出した商品もあっていいと思います。

会報などを読んでいて原発事故はこわいものだという認識があったので、福島で事故が起きたときは大変なことになったと思います。目に見えない津波の怖さと比べ、私がウクライナで感じたような目に見えない怖さはどうしても小さく扱われているような気がします。多くの人が原発は危険といいますが、どこか他人事のように

捉えていたのではないのでしょうか。私自身も佐賀県の玄海原発に近い糸島市にいなながら、今まで何で気に留めなかったのだろうと思います。26年経ったチェルノブイリの問題がまだ終わっていないように、福島でもこれから色々な影響が出てくるのではないかと心配です。

CMNの場合、会報を読めばどんな活動をしているのか、カンパがどのように役立っているのかを知ることが出来ます。寄付をする人にとつては大事なことだと思います。私は医療のことはよくわからないので、カンパなどで応援するしかないですが、これからもチェルノブイリとともに福島のことについても正しい知識を伝えていってほしいです。(談)

コンガリ舎サイト

<http://kongari.oops.jp/>

くぼともこさんは陶器を作るお仕事をされています。ご自宅にも、食パン型のお皿やキャンドルホル

ダーなど、ステキな器がたくさんありました!ウェブでもコンガリ舎さんの商品やブログをご覧ください。



たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

合計	2,205,049円
活動支援金	2,062,049円
のぞみ21カンパ	32,500円
雪だるま3号カンパ	27,500円
東日本支援カンパ	83,000円

浅倉カヨ子 泉田慶子 岩森久美 江越知佳子 枝光淳子

江藤俊一 榎本みつ枝 大田澄子 岡夏子 榎モノダスサン

コー 加茂康子 辛島恵里 川原登喜の 木下るみ 古賀尚子

後藤尚子 サトウ矯正歯科クリニック 渋谷けい子 志村美

幸 関根敏子 高橋武三 高山幸子 田上三重 甲斐綾 得能

美樹 谷口美江 種和子 中川洋慶 仲宗根明美 中村葉月

中本博子 長谷川富恵 藤本由紀 榎田千絵 松井岩美

松井由美子 丸山さより 村上和代 めぐみ保育園職員一同

森悠子 山浦真弓 山本潤子 力丸邦子

〔都道府県別〕

【東京都】2名 【長野県】1名 【富山県】1名

【静岡県】1名 【三重県】1名 【兵庫県】2名

【鳥取県】1名 【島根県】1名 【広島県】5名

【山口県】2名 【愛媛県】1名 【福岡県】13名

【長崎県】3名 【熊本県】2名 【大分県】4名

【宮崎県】1名

●マンスリーサポーターの皆さん

相川靖 相羽美香子 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利

恵 稲田照子 井上礼子 岩口香織 上田英子 植田清子 内

野千鶴子 有働聡美 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久

保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 片岡八重子 金山涼子

紙森優子 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村

雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子 斉藤美代

子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐

藤照子 白浜千恵子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田

孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子

坪川裕子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 永

尾ゆかり 永野沙智子 中村洋子 榑崎悦子 西井えりな 西首

延子 丹羽道代 納富育代 平原久子 廣松初美 深川哲臣

福井初子 福本勅子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智

恵子 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 村田聡子

村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 森川キミエ 山下澄子 山

中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉野陽子 渡邊真志子
計113名(匿名含む)

(2012年8月1日〜10月31日までに募金をして下さった方ならびに「のぞみ21」雑貨、支援コーヒー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

皆さまからのメッセージ (一部抜粋)

します。●エプロン使うのが楽しみです。●これまでの活動が福島原発事故の放射能放出問題で絶大な力を発揮されることでしょうか。息の長い支援活動に敬意を表すると共に、その一助になればと願っています。●いつもご心配大変でしょうが、これからもよろしくお願いします。●活動の成果を祈っています。●いつも変わらぬスタンスでチェルノブイリ支援をされていること素晴らしいです。●これまでの活動の成果が福島に生かされることを願っています。●応援しています。少しでも何かできればと思います。

●まだチェルノブイリ支援を継続しているーと思うだけで豊かになれます。●未永く支援をしていきたいです。●少しでもですが役に立ちますようにー●応援させて頂きます。実際に動かさずこんなことしかできませんが…。これからもよろしくお願

編集後記

今号では「ゴメリの福祉工房」の「のぞみ21」を取り上げたページがたくさんあります。期間限定で嬉しいプレゼントも付いてきますので、どうぞお買い物を通じたチェルノブイリ支援にご協力ください！(み)

● ちょっとうれしいプレゼントキャンペーン ●

期間中、商品(コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨書籍等)をご注文いただいた方にもれなく、ペラルーシで仕入れたお菓子をプレゼントします!
(数に限りがあるためなくなり次第終了となります。ご了承ください。)

期間 12月1日(土)〜12月22日(土)まで



ご注文は
お早めどうぞ

